

# 本邸園の展示の基本方針について

---

既往計画等における本邸園の展示に関する内容は以下のとおりである。

## ■内閣官房「明治期の立憲政治の確立等に貢献した先人の業績等を次世代に遺す取組に関する検討会」報告書（2017）

### 明治期における立憲政治の確立の歴史的意義

現代から見れば不十分であるとは言え、日本は、短期間のうちに立憲政治を確立することができた。今なお、民主化がスムーズに進まず、立憲政治の確立に課題がある国が存在することを鑑みれば、普遍的な意義を持っている。

## ■明治記念大磯邸園基本計画（2019）

### 基本理念

明治記念大磯邸園は…(略)、立憲政治の確立等に関する歴史やその意義を後世に伝えるとともに、湘南の邸園文化の象徴として、文化の発信や、憩いと交流の拠点となる場を創出するものとする。

### 基本方針

#### 1. 明治期の立憲政治の確立等の歴史や意義を伝える

邸宅等を一体的な「場」として活用することで、訪れた人々が、往時に想いを馳せながら、歴史的資料のアーカイブ化や展示等の取組により立憲政治の確立等の歴史や意義を学び、理解を深めることのできる空間を整備します。展示等の実施にあたっては、関連する歴史文化施設との連携を図ります。

### 空間整備方針

#### (1) 明治期の立憲政治の確立等の歴史や意義を学ぶ空間

明治期の立憲政治の確立の歴史や意義等を学ぶことができるよう、旧滄浪閣の区域を中心に、各邸宅等が相互に関連付けられた複合的な歴史的資料の展示や学習の場となる空間とします。旧滄浪閣の区域には、本邸園のエントランス及びガイダンス機能を有する空間を配置し、本邸園を回遊しながら学ぶことのできる空間構成とします。

## ■何を伝えるか？

「政界の奥座敷」と呼ばれた大磯の歴史を背景に、伊藤博文をはじめ本邸園内の邸宅にゆかりのある人物に焦点を当て、その人物の業績や、大磯での交友等の過ごし方を通じ、明治期における立憲政治の確立等の歴史や意義を伝えていく。



大磯滄浪閣で会談する伊藤博文と大隈重信

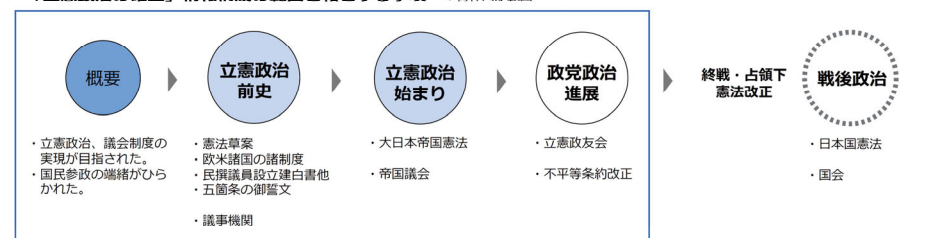


松林の中でくつろぐ山縣有朋と陸奥一家

### 【明治期の立憲政治の確立等の歴史や意義の内容】

江戸時代から明治時代への変化、大日本帝国憲法（明治憲法）発布、帝国議会開設、立憲政友会の結成など国際政治史上まれに見る速さで立憲制の国家を形成し、憲法を停止させることなく民主化を進めた過程を伝えていく。

「立憲政治の確立」情報構成の範囲と軸とする事項 \*青枠内が範囲



## ■誰に伝えるか？

多様な来園者を対象としつつも、本邸園基本計画の基本理念である“立憲政治の確立等に関する歴史や意義を後世に伝える”という位置付けから、次世代を担う若者たち（小・中学生、高校・大学生等）を主たるターゲットに見据え、歴史的遺産の中で楽しみながら学べる展示を検討する（課外授業等の利用も想定）。



子ども達が歴史学習で利用する様子  
写真：国営飛鳥歴史公園HP



大学生が歴史的建造物をフィールドに学習等で活用する様子  
写真：関東学院大学HP

## ■どこで伝えるか？

旧滄浪閣のエントランス施設に設けるガイダンス等の展示を中心に、各邸宅や庭園等を含め、本邸園全体をフィールドとして展示を行い、“本邸園ならではの”という立地特性を活かしたものとする。

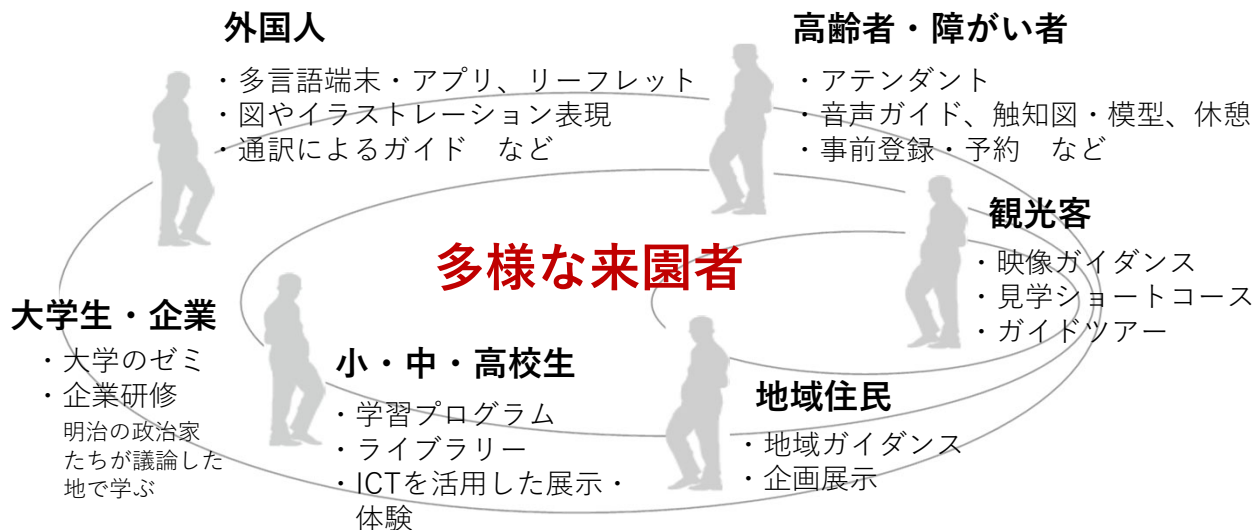


展示の空間構成



## ■どのように伝えるか？

本邸園を訪れる様々な来園者が理解しやすいよう留意しつつ、適宜、ICT技術等も活用しながら、学生等をはじめ多くの人々が本邸園をフィールドに楽しみながら学び、往時を追体験できるような展示を検討する。



### 実践例

#### 多言語対応

アプリケーションソフトにより専用サイトにアクセス。端末を貸出し音声と文字情報によって多言語化に対応。



#### ガイドツアー

本邸園の邸宅やゆかりの人物に関する歴史等を解説するガイドツアーにより、より理解を深めることに役立つ。



記念公開時のガイドツアーの様子

#### 実物・複製・模型の活用（関係機関とも連携）

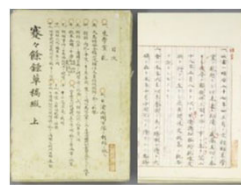
展示環境の特性を踏まえ、常設する場においては、通常複製や模型を展示。

本物は、期間限定の企画展示等において、集客の核として活用する。

#### 資料例



杉戸絵  
(伊藤博文が明治天皇から下賜されたと言われているもの。現在、大磯町郷土資料館にて寄託保管。)



蹇蹇余録草稿綴上巻（複製）  
(陸奥宗光が大磯で書いた外交記録。レプリカを邸園内で保管。)

#### ICT技術の活用

学習から観光まで多様な来園者層に切れ、直感的な理解や印象深い展示体験を実現するため、ICTを活用した展示手法を検討。

#### モノから情報を引き出す

AR技術を使って様々なモノから情報を引き出す。散策しながら、エピソードに触れ楽しめる。



ARアプリイメージ

#### デジタルで連携

所蔵品やアーカイブのデータをWEB上に公開。本邸園の価値を高めるとともに学習教材として活用。



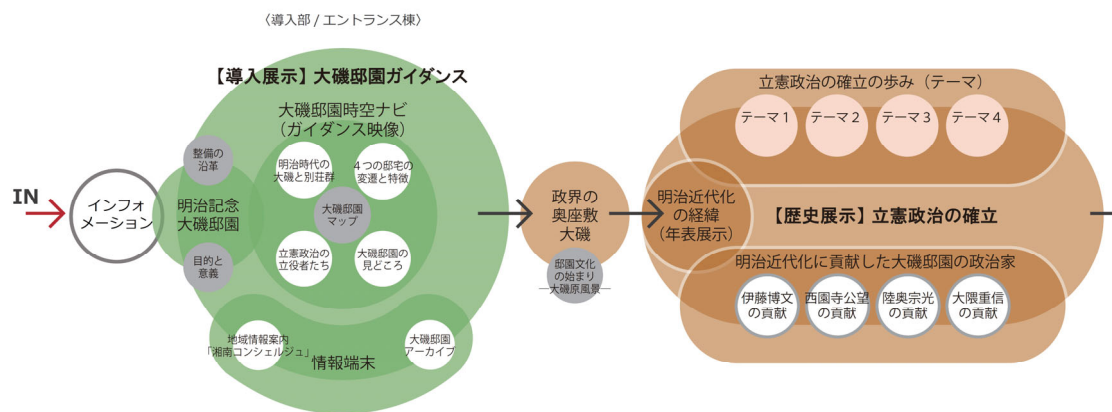
▶ 展示物の管理（スタッフ、収蔵庫）をどうするか要検討

# 展示の全体構成

新築エントランス施設では、本邸園の総合案内である「導入展示」と、立憲政治に関する「歴史展示」を設け、本邸園の全容を伝えるとともに、各邸宅に誘う展示として、園内の総合的な展示機能を担うものとする。

邸宅や庭園では、場所ごとに往時の先人たちの眼差しを積層する歴史の中に見出し、邸宅の歴史やその佇まいを伝える展示構成とする。

## 新築エントランス施設



本邸園をの概要・設置主旨等を伝える

【導入展示】大磯邸園ガイドンス

AI機能を搭載したデジタル展示



※展示はイメージ

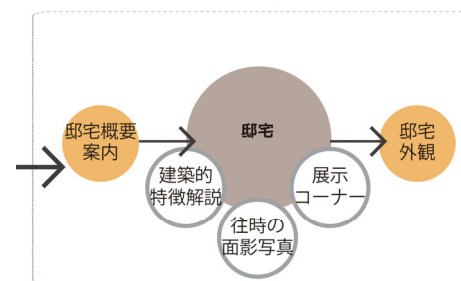
明治期の立憲政治の確立等の歴史や意義を伝える

【歴史展示】立憲政治の確立

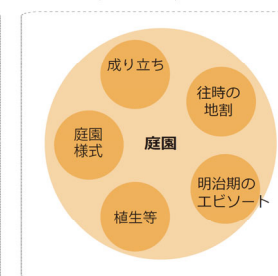


## 邸宅や庭園

【邸宅の展示】



【庭園の展示】



邸宅等の佇まいを感じながら歴史を伝える





## ■導入展示（大磯邸園ガイドス）…本邸園の展示情報すべてを知ることができるガイドス

### ●大磯邸園時空ナビ（概要紹介）

本邸園の概要等を映像等で紹介し、明治期から残る多様な要素をわかりやすくひも解き、一つのストーリーとして紹介（明治期へタイムスリップ）

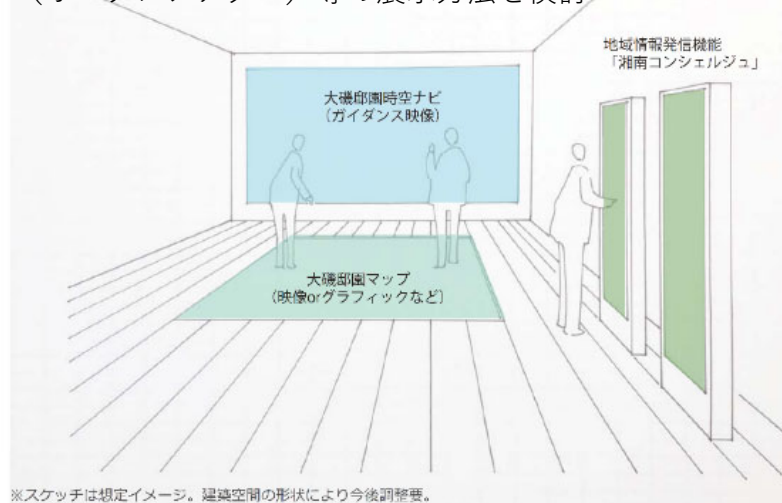
### ●湘南コンシェルジュ（周辺地域の情報案内）

本邸園周辺の歴史文化資産をはじめ湘南の邸園文化をビジュアル中心に展開（湘南の邸園ツーリズムへ誘引）

### ●大磯邸園アーカイブ（アーカイブ展示）

関係する歴史文化施設と連携し、本邸園に関連する情報や古写真、絵葉書などの資料等を検索・閲覧できるアーカイブ展示を導入

エントランスのオープンエリアに展開するガイドス映像（オープンシアター）等の展示方法を検討



## ■歴史展示（立憲政治の確立）…地域から探る、大磯から歴史を紐解く展示ストーリー

### ●邸園文化の始まりー大磯原風景ー

保養地・避暑地として大磯が人気を集め、別荘地として発展して行く歴史的な背景を伝える。

### ●「政界の奥座敷」大磯

明治期に多くの政府要人が別荘を構え、「政界の奥座敷」として政治家たちが集ったことを印象的に伝え、歴史展示の導入とする。



### ●立憲政治の確立の歩み（テーマ）

大日本帝国憲法の発布、第一回帝国議会開催による立憲国家としての始まり、その後の立憲政友会の創設による政党政治へと至る立憲政治の確立への歩みを紹介

### ●明治近代化の経緯（年表展示）

明治維新により、封建社会から大きく変化した日本の近代化の歩みを紹介する。また、近代化を社会背景として、立憲政治の確立の歩みを概説する。

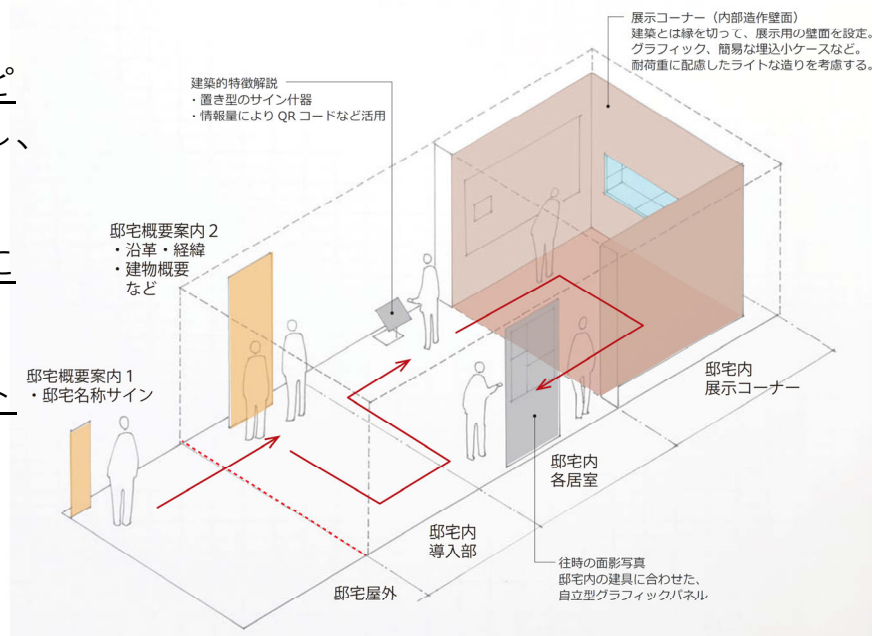
### ●明治近代化に貢献した本邸園の政治家

大磯に別荘を構えた伊藤、大隈、陸奥、西園寺について、人物紹介とともに、立憲政治の確立等に関する歩みについて紹介する。

邸宅や庭園そのものが展示であることを主に捉え、建物や庭園自体の魅力を発信しつつ、先人の暮らしぶり等を通じて、本邸園の歴史や文化に理解を深められるよう展示で補うものとする。

## ■ 邸宅内の展示について

- かつて住んでいた政治家の大磯ゆかりのエピソードや古写真、家屋図等を動線上に配置し、往時の面影を偲ばせる。
- 建築の文化財的価値に考慮し、躯体・構造に負担をかけない展示とするよう配慮する。
- 邸宅（建築）の経緯や概要、内観のポイントは、事前情報として建物前に配置。
- 邸宅内は自由観覧を基本とし、見どころや順路等をサイングラフィック等で補足。



(参考)別邸で過ごす陸奥の様子



(参考)旧吉田邸内部の展示の様子

※スケッチは展示の構造を検討するための、概念ダイアグラム。今後変更の可能性あり。

## ■ 庭園内の展示について

- 庭園の特徴や歴史を伝える古写真等を適宜配置し、来園者が往時に想いを馳せる手助けを行う。
- 邸宅の見どころや、松林に残る先人ゆかりのエピソードなどをグラフィック等で伝え、適宜ICT等を活用しながら、来園者が楽しみながら回遊できるようにする。



滄浪閣前庭にて (大正初期) (大磯町郷土資料館所蔵)



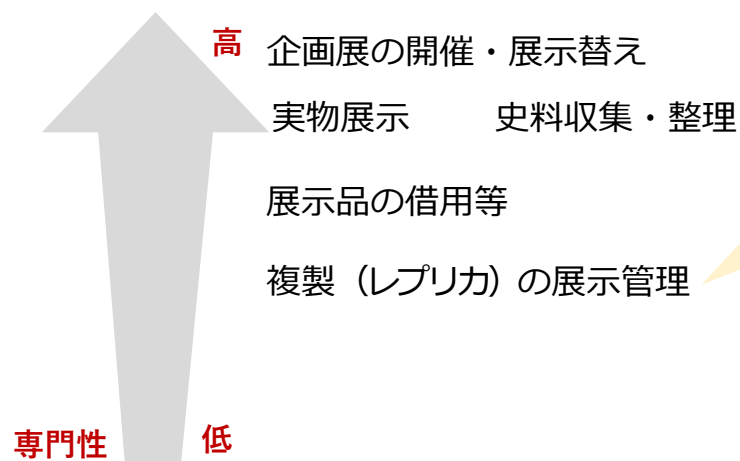
※展示イメージ

## ■展示物の管理運営を行う人材について

歴史的遺産を保存・活用する公共施設として展示の質を確保しつつ、歴史を学ぶ施設として、学芸員等の専門的な知見を有する人材の配置について検討する。

※今後、神奈川県の関係機関や大磯町郷土資料館等とともに、具体の管理運営方法等について調整する。

< 専門性の高低度と具体の活用内容（想定） >



複製（レプリカ）展示を中心としつつ、リピーター等にとっても本邸園が魅力的なものとなるよう、実物展示や企画展の開催の実現を想定

→ 学芸員資格相当の専門知識を有する人材の配置を検討

## ■収蔵スペース等について

邸園全体をフィールドに歴史を学ぶ空間としていること、新築エントランスも、博物館ではなく本邸園のガイダンス機能を担う施設であることから、様々な資料を本邸園内に集約するのではなく、限られたスペースの中で本邸園に関連する展示物を保管するための収蔵スペースを設けつつ、近年のICT技術も活用したデジタルアーカイブ機能を検討する。